

学童期における生活意識の追跡調査

— 3年生時と6年生時の比較 —

Surveillance study about life consciousness of school age children.

原 崎 聖 子¹・篠 原 しのぶ²・彌 永 和 美³・渡 邊 晴 美²
Seiko Harasaki・Shinobu Shinohara・Kazumi Iyonaga・Harumi Watanabe

【目的】

日本においてブックスタート事業が開始されるにあたり、その目的は絵本を媒体として親子の暖かい交流の時間を持つ「share books with your baby」という英国の精神を重要視してきた。

これまでわれわれは福岡県小郡市において2003年にブックスタートを受けた子どもとその保護者がどのようにブックスタートを感じたのか、また保護者が日常生活や子育てにどのように絵本を役立てていたのか、さらに、子どもたちには絵本を媒体とした子育ての影響がみられるのかなどに関して追跡研究してきた。

前述のようにブックスタート事業は赤ちゃんとも母親の暖かなつながりを主たる目的としているもので、早期教育、学童期以降の学業成績や学習態度との関係性を重要視するものではない。しかし、10数年間に渡る追跡の中で子どもたちは「赤ちゃん」から「幼児」そして「児童」へと成長した。

われわれはブックスタートの影響を確認する手段として、対象とする子どもたちが小学校3年生に達した際に、それまで保護者に対してのみ回答を求めていたものを児童に対しても回答を求めた。また、児童間の比較をするために、ブックスタート事業開始前年に10ヶ月健診を受けた3年生児童の回答を収集してその調査結果を第13号紀要に記した。

今回の調査では、それら小学3年生時に児童から得られた回答と、小学6年生に成長した回答とを比較し、

幼児性がまだ残る児童期前期児と、いわゆる「徒党時代」の児童期後期児の、「本」を中心とした意識や生活についての変化を捉えてみることにする。

尚、今回の対象児童は小郡市でブックスタート事業を開始する前年に10ヶ月検診を受けた児童のみとし、ブックスタート事業を受けたか否かの影響による個人差は排除している。

【調査手続き】

調査対象者	小郡市在住の小学生 664名
調査期間	2011年1月（小学校3年生時） 2013年5月（小学校6年生時）
調査内容	・本の読み聞かせの度合い ・読書への嗜好 ・まんが、テレビ、ゲームについて ・図書館の利用頻度 ・好きな教科 ・家庭での様子 ・知っている花、虫の数（3分間）

尚、質問紙の配布と回収については小郡市立図書館より教育委員会を通して小学校へ依頼し、児童には各教室で調査を実施した。また、回収したデータについては集団として統計処理を施し、個人あるいは学校を特定するものではないことを共通認識している。

1 福岡女学院看護大学

2 福岡女学院大学

3 活水女子大学

【結果と考察】

1. 過去における「本」に対する意識の比較

表1. あなたはおうちの人から本を読んでもらったことがありますか

質問紙 問1. 回答		よくある	時々ある	あまり覚えていない	なかった	合計	
学年	3	度数	203	296	127	35	661
		%	30.7%	44.8%	19.2%	5.3%	100.0%
	6	度数	283	226	142	24	675
		%	41.9%	33.5%	21.0%	3.6%	100.0%
合計		度数	486	522	269	59	1336
		%	36.4%	39.1%	20.1%	4.4%	100.0%

$\chi^2=25.29, df=3, P<.001$

表2. あなたは小さいとき本を読んでもらうのが好きでしたか

質問紙 問3. 回答		好きだった	少し好きだった	あまり好きではなかった	好きではない	合計	
学年	3	度数	388	173	69	24	654
		%	59.3%	26.5%	10.6%	3.7%	100.0%
	6	度数	342	207	80	41	670
		%	51.0%	30.9%	11.9%	6.1%	100.0%
合計		度数	730	380	149	65	1324
		%	55.1%	28.7%	11.3%	4.9%	100.0%

$\chi^2=11.00, df=3, P<.05$

表3. あなたは自分で本を読むのが好きですか

質問紙 問4. 回答		好き	少し好き	あまり好きではない	好きではない	合計	
学年	3	度数	383	193	64	22	662
		%	57.9%	29.2%	9.7%	3.3%	100.0%
	6	度数	351	213	80	29	673
		%	52.2%	31.6%	11.9%	4.3%	100.0%
合計		度数	734	406	144	51	1335
		%	55.0%	30.4%	10.8%	3.8%	100.0%

n.s.

過去と現在の「本」に対する意識を表1～表3に示した。表1「おうちの人から本を読んでもらったことがありますか」及び、表2「小さいとき本を読んでもらうのが好きでしたか」という問いについてはそれぞれ有意差がみられた ($\chi^2=25.29, df=3, p<.001$) ($\chi^2=11.00, df=3, p<.05$)。

これによると本を読んでもらったことが「よくある」という回答は3年時30.7%から6年時41.9%へ、「時々ある」は3年時44.8%から6年時33.5%へ変化し、読

んでもらった記憶量が増加している。また、本を読んでもらうのが好きだったかという問いに対しては「好きだった」という回答が半数を超えてはいるが、「少し好きだった」3年時26.5%6年時30.9%へ、また「好きではなかった」も3.7%から6.1%に増加しており、本を読んでもらうのは好きだったという記憶は否定的な方向に変化していた。

自分で本を読むのが好きですかという問いは両学年に有意差は見られず、80%以上が「好き」あるいは「少し好き」と回答している。

以上、3年生から6年生になると、幼児期に本を読んでもらった頻度は多い方向に、同時にその記憶は好きではなかったという方向に記憶変容していた。

2. 現在の「マンガ」「テレビ」「ゲーム」の意識に関する比較

表4. あなたはマンガを見ますか

質問紙 問6. 回答		よくみる	ときどきみる	あまりみない	みない	合計	
学年	3	度数	298	227	75	61	661
		%	45.1%	34.3%	11.3%	9.2%	100.0%
	6	度数	360	216	78	21	675
		%	53.3%	32.0%	11.6%	3.1%	100.0%
合計		度数	658	443	153	82	1336
		%	49.3%	33.2%	11.5%	6.1%	100.0%

$\chi^2=25.54, df=3, P<.001$

表5. あなたはなぜマンガをみるのですか

質問紙 問6. 回答		おもしろいから	やくにたつから	みんながみるから	合計	
学年	3	度数	537	19	37	593
		%	90.6%	3.2%	6.2%	100.0%
	6	度数	584	24	33	641
		%	91.1%	3.7%	5.1%	100.0%
合計		度数	1121	43	70	1234
		%	90.8%	3.5%	5.7%	100.0%

n.s.

表6. あなたはテレビをみますか

質問紙 問8. 回答		よくみる	ときどきみる	あまりみない	みない	合計	
学年	3	度数	552	93	16	1	662
		%	83.4%	14.0%	2.4%	0.2%	100.0%
	6	度数	548	107	14	3	672
		%	81.5%	15.9%	2.1%	0.4%	100.0%
合計		度数	1100	200	30	4	1334
		%	82.5%	15.0%	2.2%	0.3%	100.0%

n.s.

表7. あなたはなぜテレビをみるのですか

質問紙 問9. 回答		おもしろいから	やくにたつから	みんながみるから	合計	
学年	3	度数	506	117	29	652
		%	77.6%	17.9%	4.4%	100.0%
	6	度数	542	82	15	639
		%	84.8%	12.8%	2.3%	100.0%
合計		度数	1048	199	44	1291
		%	81.2%	15.4%	3.4%	100.0%

$\chi^2=11.71, df=3, P<.01$

表8. あなたはゲームをしますか

質問紙 問10. 回答		よくする	ときどきする	あまりしない	しない	合計	
学年	3	度数	271	239	103	49	662
		%	40.9%	36.1%	15.6%	7.4%	100.0%
	6	度数	317	214	113	29	673
		%	47.1%	31.8%	16.8%	4.3%	100.0%
合計		度数	588	453	216	78	1335
		%	44.0%	33.9%	16.2%	5.8%	100.0%

$\chi^2=10.48, df=3, P<.05$

表9. あなたはなぜゲームをするのですか

質問紙 問11. 回答		おもしろいから	やくにたつから	みんながみるから	合計	
学年	3	度数	547	15	46	608
		%	90.0%	2.5%	7.6%	100.0%
	6	度数	579	8	42	629
		%	92.1%	1.3%	6.7%	100.0%
合計		度数	1126	23	88	1237
		%	91.0%	1.9%	7.1%	100.0%

n. s.

マンガ、テレビ、ゲームというメディアに関してそれに関わる頻度と関わる理由を聞いたところ頻度ではマンガとゲームに両学年の有意差が見られた。 $(\chi^2=25.54, df=3, p<.001)$ $(\chi^2=10.48, df=3, p<.05)$ 。マンガを「よくみる」という回答は3年時45.1%から6年時53.3%へ、「みない」は3年時9.2%から6年時3.1%へ変化し、学年が上がるほどマンガを読んでいる状況が伺える。また、ゲームについても「よくする」という回答は3年時40.9%から6年時47.1%へ、「しない」は3年時7.4%から6年時4.3%へ変化し6年時にゲームをする割合が増している。

マンガについては書かれている絵の感情、状況、展開の理解が年齢が上がるにつれて可能になりマンガの楽しさに触れていくものと思われる。また、ゲームに

関しても遊戯技術とゲーム内容の高度化から学年が上がるほどに触れる機会が増しているものと思われる。

尚、テレビに関しては両学年ともに「よくみる」が80%を超えており受動的メディアとしてテレビは学年に関係なく多く視聴している。

3. 現在の「本」に対する意識の比較

表10. あなたは学校の図書館で本を借りることがありますか

質問紙 問12. 回答		よく借りる	ときどき借りる	あまり借りない	借りない	合計	
学年	3	度数	174	362	108	11	655
		%	26.6%	55.3%	16.5%	1.7%	100.0%
	6	度数	174	339	132	26	671
		%	25.9%	50.5%	19.7%	3.9%	100.0%
合計		度数	348	701	240	37	1326
		%	26.2%	52.9%	18.1%	2.8%	100.0%

$\chi^2=9.04, df=3, P<.05$

表11. あなたは小郡市立図書館で本を借りることがありますか

質問紙 問13. 回答		よく借りる	ときどき借りる	あまり借りない	借りない	合計	
学年	3	度数	126	230	166	137	659
		%	19.1%	34.9%	25.2%	20.8%	100.0%
	6	度数	49	218	242	163	672
		%	7.3%	32.4%	36.0%	24.3%	100.0%
合計		度数	175	448	408	300	1331
		%	13.1%	33.7%	30.7%	22.5%	100.0%

$\chi^2=50.48, df=3, P<.001$

表12. あなたは本をもらうとうれしいですか

質問紙 問14. 回答		とてもうれしい	すこしうれしい	あまりうれしくない	うれしくない	合計	
学年	3	度数	389	223	40	7	659
		%	59.0%	33.8%	6.1%	1.1%	100.0%
	6	度数	329	274	54	16	673
		%	48.9%	40.7%	8.0%	2.4%	100.0%
合計		度数	718	497	94	23	1332
		%	53.9%	37.3%	7.1%	1.7%	100.0%

$\chi^2=15.70, df=3, P<.01$

学校・地域の図書館で本を借りるか、本をもらうとうれしいか、という問いではいずれの問いにも有意差が見られた。 $(\chi^2=9.04, df=3, p<.05)$ $(\chi^2=50.48, df=3, p<.001)$ $(\chi^2=15.70, df=3, p<.01)$ 。

学校の図書館では3年生時が借りる割合が高く、6年時になると「あまりかりない」「かりない」の割合

が増している。また、地域の図書館で本を借りる割合は3年次で「よくかりる」が19.1%であったものが6年時には7.3%と下がり「あまりかりない」「かりない」の割合が上がっている。

これは、先の結果で述べたように、マンガを読む、ゲームに触れるなどの時間が6年時に増しており、余暇時間利用の変化から図書館で本を借りて読むという時間が減少していることが考えられる。

さらに、地域の図書館に行く割合が3年生から6年生にかけて大きく減少するのは、小学校での教育内容が、身近な地域社会から、日本、世界へと変化する過程で児童の関心が身近な地域の施設から遠ざかるということも考えられるのではないだろうか。

4. 家族との関係に関する意識の比較

家族との関係に関する意識として、表13「あなたはおうちの手伝いをするのが好きですか」、表14「おうちの人と出かけたり買い物に行くのが楽しみですか」、表15「あなたはその日のできごとや友達のことを家族に話しますか」の3項目を尋ねたところ、それぞれに有意差あるいは傾向が見られた。 $(\chi^2=39.12, df=3, p<.001)$ $(\chi^2=8.99, df=3, p<.05)$ $(\chi^2=6.66, df=3, p<.10)$ 。

手伝いをするのが好きですかという問いについては「好き」という回答は3年時が38.2%、6年時が22.9%と下がり、「あまり好きではない」が3年時18.4%、6年時26.6%と上がっている。このことは、3年時点では手伝いをして家族の役に立ちそのことを褒められるということに喜びを感じていたものが、6年時点においては家族に褒められるということよりもむしろ勉学など自分の目標を達成することに自己の有能感を感じるようになり手伝いをすることに対する魅力が減少したのではないかと考えられる。

また、「おうちの人と出かけたり買い物に行くのが楽しみですか」という問いでは、「とても楽しみ」が3年時61.0%、6年時53.6%と減少している。両学年ともに家族と出かけたり買い物をするをとても楽しみにしている割合は50%を越えているが3年時から6年時にかけて減少するというのは、成長の過程で、時間を共にしたり話しをする対象者が家族から友人へ

表13. あなたはおうちの手伝いをするのが好きですか

質問紙 問17. 回答		好き	すこし好き	あまり好きではない	好きではない	合計
学年	3	度数 253	242	122	46	663
		% 38.2%	36.5%	18.4%	6.9%	100.0%
学年	6	度数 154	287	179	53	673
		% 22.9%	42.6%	26.6%	7.9%	100.0%
合計		度数 407	529	301	99	1336
		% 30.5%	39.6%	22.5%	7.4%	100.0%

$$\chi^2=39.12, df=3, P<.001$$

表14. おうちの人と出かけたり買い物に行くのが楽しみですか

質問紙 問18. 回答		とても楽しみ	少し楽しみ	あまり楽しみではない	楽しみではない	合計
学年	3	度数 404	182	46	30	662
		% 61.0%	27.5%	6.9%	4.5%	100.0%
学年	6	度数 361	222	63	28	674
		% 53.6%	32.9%	9.3%	4.2%	100.0%
合計		度数 765	404	109	58	1336
		% 57.3%	30.2%	8.2%	4.3%	100.0%

$$\chi^2=8.99, df=3, P<.05$$

表15. あなたはその日のできごとや友達のことを家族に話しますか

質問紙 問19. 回答		よくする	ときどきする	あまりしない	しない	合計
学年	3	度数 299	254	72	37	662
		% 45.2%	38.4%	10.9%	5.6%	100.0%
学年	6	度数 276	255	104	39	674
		% 40.9%	37.8%	15.4%	5.8%	100.0%
合計		度数 575	509	176	76	1336
		% 43.0%	38.1%	13.2%	5.7%	100.0%

$$\chi^2=6.66, df=3, P<.10$$

と移っているということであろう。

このことは、最後の質問である、「その日の出来事や友達のことを家族に話しますか」という問いでも3年時から6年時にかけて話す割合が減少する傾向にあることからいえるのではないだろうか。

以上、3年生から6年生にかけての発達的な変化を捉えてみたが、児童期前期から後期にかけて興味や活動の中心が変化する様子が伺えた。遊びとしての「本」については読む事への興味が薄れ、その代わりにマンガやゲームへの興味が増している。このようなことは、「本」という媒体を通して知識を広め、地域と関わりながら情緒を豊かにしていくことに喜びを感じる時期から、自らの感情の起伏を仮想的に投影したり、思考や技術を駆使して達成し自ら有能感を得るということ

表16. 好きな科目として選択した割合(3つ選択)

			国語	社会	算数	理科	生活科	音楽	図工	体育	道徳	英語活動	総合	学活	書写	家庭科	人数
学年	3	度数	81	65	177	254	8	244	415	390	53	92	65	49	/	/	631
		学年の%	12.8%	10.3%	28.1%	40.3%	1.3%	38.7%	65.8%	61.8%	8.4%	14.6%	10.3%	7.8%			
	6	度数	70	143	155	166	/	173	277	379	24	110	57	91	47	183	625
		学年の%	11.2%	22.9%	24.8%	26.6%	/	27.7%	44.3%	60.6%	3.8%	17.6%	9.1%	14.6%	7.5%	29.3%	

に喜びを感じる時期へと変化しているということができないのではないだろうか。また、その過程において、感情を共有し共感できるのは、もはや家族ではなく友人である。したがって、家庭の中での手伝い、家族との外出、家族との団欒なども減少し、行動規範の中心は家族から友人に移行していることが証明されたのではないだろうか。

尚、生活意識とは直接関係はないが、以下に、好きな教科及び花と虫の再生量に関する3年時と6年時の比較を示す。

好きな教科に関してはいずれの学年においても体育及び図画工作を選択する割合が高かった。また、国語と算数は学年による大きな違いは見られなかったものの、社会は6年生時が、理科は3年生時で選択する割合が高くなるなど、好きな教科は学年により選択状況が異なることが示された。

花と虫の名前の再生数については3年時よりも6年時の再生数が有意に高く、知識量が増加している様子を示した ($t=7.261$, $df=1337$, $p<.001$) ($t=13.530$, $df=1337$, $p<.001$)。

以上、学童期の生活意識と発達の関係を示したが、今後、ブックスタート経験と発達との関係性についても研究を進める予定である。

表17. 花・虫の再生数比較(各3分間)

		度数	平均値	標準偏差	t	df	有意確率(両側)
花	3年	663	8.91	3.768	-7.261	1337	.000
	6年	676	10.73	5.265			
虫	3年	663	10.27	4.302	-13.530	1337	.000
	6年	676	14.71	7.291			

【参考文献・参考資料】

秋田喜代美 (2008) 「読む力が育つ授業作りの課題」 PP.61-67 第19回国語教育研究実践交流会報告
 小学校学習指導要領解説 (2010) 総則編 部科学省 P.37、P.52-55、P.69-70
 NPO ブックスタート編著 (2010) 「赤ちゃんと絵本をひらいたら」—ブックスタートはじまりの10年—岩波書店
 NPO ブックスタート編著 (2014) 「ブックスタートがもたらすもの」に関する研究レポート NPO ブックスタート
 原崎聖子 篠原しのぶ (2005) 「母親の乳幼児養育に関する調査—ブックスタート事業との関わりから—」 福岡女学院大学紀要人間関係学部第6号
 原崎聖子 篠原しのぶ (2006) 「母親の乳幼児養育に関する調査—ブックスタート事業18ヶ月児を中心に—」 福岡女学院大学紀要人間関係学部第7号
 原崎聖子 篠原しのぶ 安永可奈子 (2007) 「母親の乳幼児養育に関する調査—ブックスタート事業36ヶ月児を中心に—」 福岡女学院大学紀要人間関係学部第8号
 原崎聖子 篠原しのぶ 彌永和美 (2010) 「就学前児の家庭における読み聞かせ環境の調査—ブックスタート事業との関係—」 福岡女学院大学紀要人間関係学部第11号
 原崎聖子 篠原しのぶ 彌永和美 (2012) 「ブックスタート追跡調査からみる親子関係の特徴と学童期への影響について」 福岡女学院大学紀要人間関係学部第13号
 脇 明子 (2002) 「読む力は生きる力」 岩波書店
 大平勝馬他 (1983) 新版 児童心理学 建帛社 P.51、62、82、9-94